

第7回原子力委員会

資料 第 1 号

平成22年度茨城県 国民保護共同実動訓練概要

平成23年2月22日

内閣官房副長官補(安全保障・危機管理担当)付

訓練概要

<概要>

1. 実施日時

平成23年1月30日(日) 10:00~13:00

2. 訓練想定

茨城県三の丸庁舎においてダーティボムを用いたテロ発生(被災者198名)

3. 主な訓練会場

①茨城県三の丸庁舎及びその周辺【災害等対処訓練、医療救護訓練】

②国立病院機構水戸医療センター、水戸済生会総合病院【医療救護訓練】

③水戸市立三の丸小学校【救護所・避難所運営訓練】

④茨城県庁、総理大臣官邸【テレビ会議、合同対策協議会の運営訓練】

4. 参加機関

73機関、約800名

(政府、茨城県、水戸市、警察、消防、自衛隊、医療機関、指定公共機関等)

5. 訓練の特徴

○Rテロ(ダーティボム事案)を想定した共同実動訓練【初】

○県内外の専門機関による支援

○Rテロ事案への被ばく医療機関以外の救急医療機関の参加

○リスクコミュニケーション、メンタルヘルスへの配慮の実施

○専門家によるワーキンググループを活用した訓練シナリオの作成

実動訓練開催場所



水戸済生会病院
(負傷者搬送先)



三の丸庁舎
(事案発生現場)



三の丸小学校
(救護所・避難所運営)



水戸第一高校
(臨時ヘリポート)



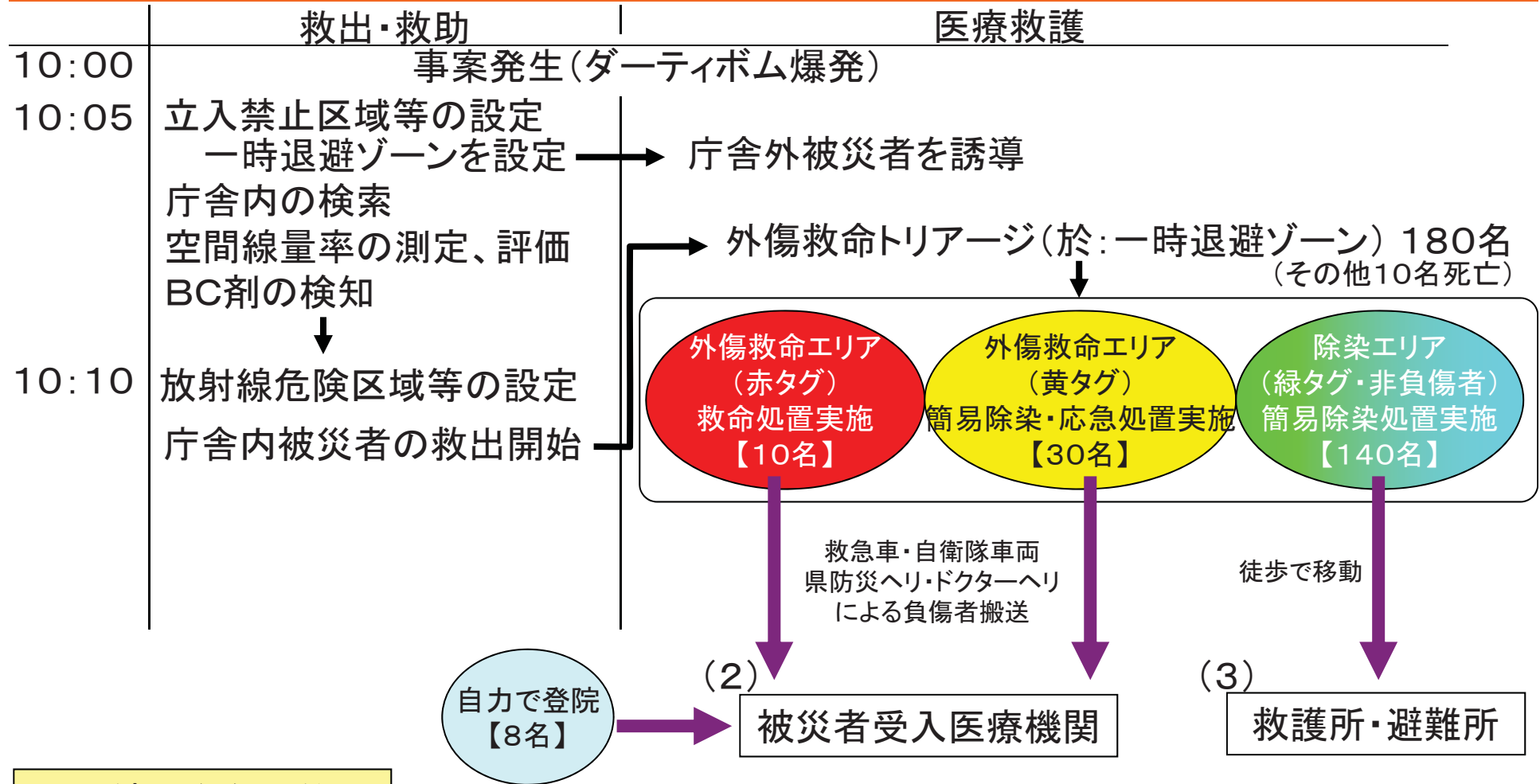
水戸医療センター
(負傷者搬送先)



茨城県庁
(合同対策協議会)



(1) 発災現場における訓練内容(三の丸庁舎)



訓練の主な目的

○Rテロ(ダーティボム)被災者の治療の原則の確認

「まず、外傷治療、その後、必要に応じて被ばく治療」(緊急被ばく医療のあり方について(原子力安全委員会))

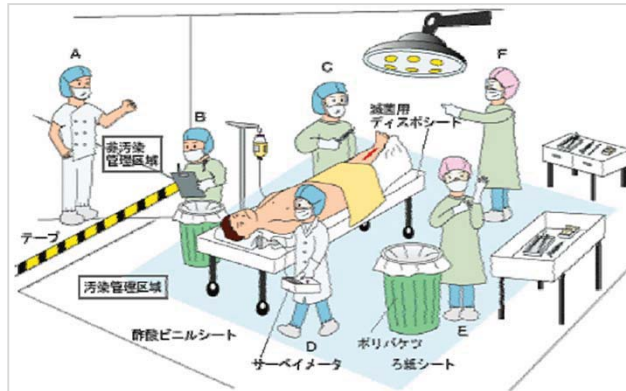
→ 赤タグ患者は、汚染の有無にかかわらず救命処置(外傷処置)を優先する。

○放射線防護(装備等)の確認 例:マスク、ゴーグル、防護服

(2) 医療機関における訓練内容(水戸医療センター、水戸済生会総合病院)

○負傷者等の収容

- ・進入統制(ゲートコントロール)の実施
→ 汚染のある患者とそれ以外の患者の動線を分離
- ・処置室までの経路、処置室等の養生※を実施



※「養生」・・・壁や装置等が放射性物資によって汚染されないように、あらかじめビニールシート等でカバーすること。
作業終了後、ビニールシート等を外すことにより、通常の状態に速やかに戻すことが可能。

- ・対応する要員の個人防護装備の装着



簡易型防護服



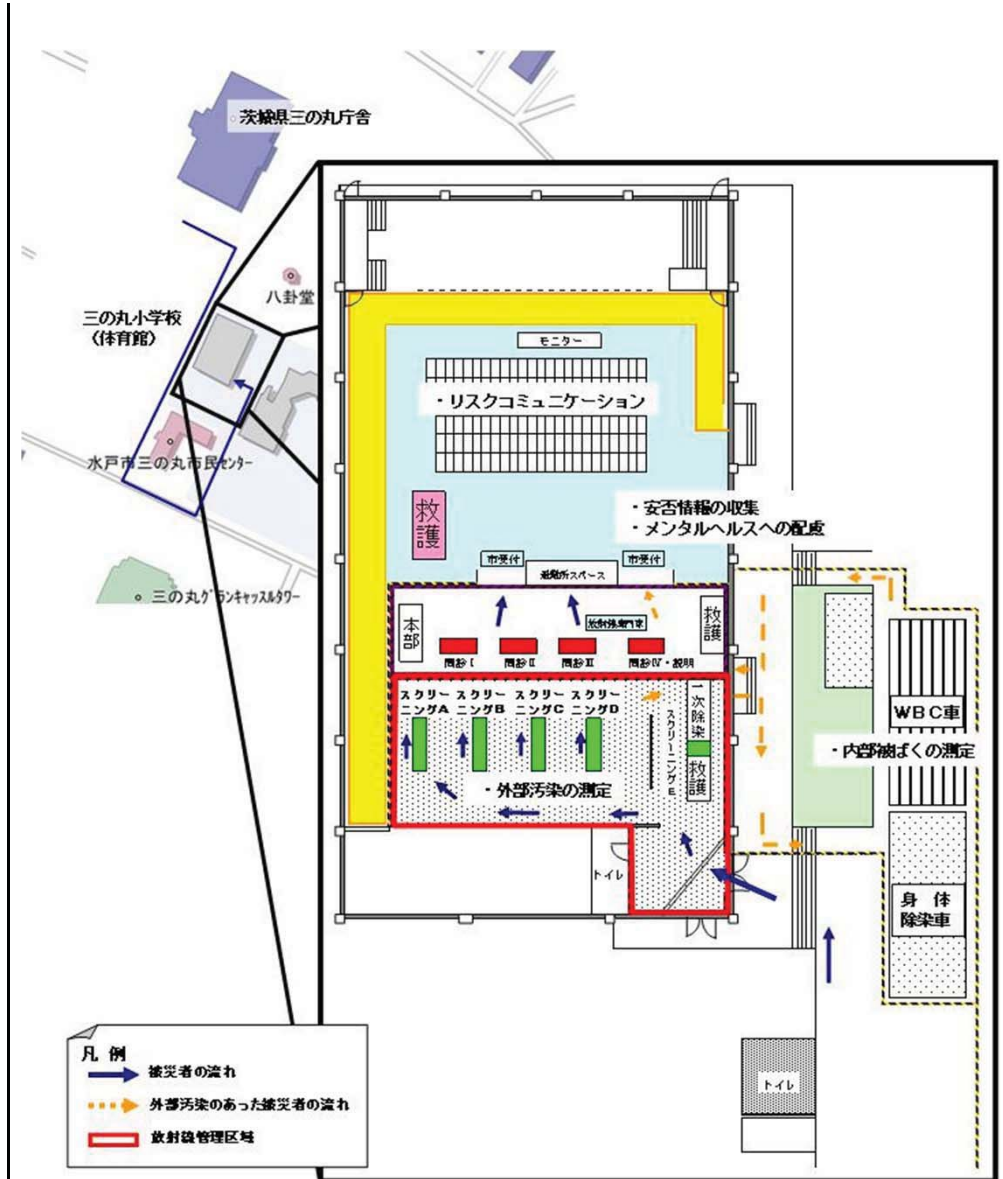
防塵マスク

○専門機関等との連携による医療処置等

- 水戸済生会総合病院(非被ばく医療機関)では、専門家である放医研(千葉県)の緊急被ばく医療派遣チーム(陸自ヘリで輸送)の指導を受けて、医療処置等を実施
- Rテロ事案発生時の非被ばく医療機関のかかわり方の検証
 - 非原発立地県での被ばく医療の提供へ

(3) 救護所・避難所における訓練内容(三の丸小学校)

- 10:00 茨城県三の丸庁舎において爆発が発生
- 10:30 県(保健所等)及び水戸市の職員が発災現場に到着
- 10:35 救護所・避難所の開設
救護所・避難所への避難開始
(自衛隊が誘導)
- 10:40 放射線専門機関(日本原子力研究開発機構)が救護所・避難所に到着
外部汚染のスクリーニング・内部被ばく評価の開始
安否情報の収集の開始
メンタルヘルスへの配慮
リスクコミュニケーションの開始



(4) 搬送に際して行うことが望ましい措置

- 搬送車両・ヘリコプターの養生を実施
- 搬送患者のパッキング(シュラフ・毛布等で覆う)の実施
- 患者に触れる可能性のある搬送要員の個人防護装備(マスク、ゴーグル、個人防護衣、警報付個人線量計)の装着



救急車の養生



シュラフによるパッキング



毛布によるパッキング・搬送要員の個人防護装備

(5) その他

- 「茨城県国民保護共同実動訓練の概要(パンフレット)」につきましては
内閣官房国民保護ポータルサイト <http://www.kokuminhogo.go.jp/>
からダウンロードすることができます。